

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)
／原 卓志

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

現在、交付を受けている「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(基盤研究(C)研究代表者:5年計画3年目)と、「日本伝来宋版一切経の角筆点の発掘と東アジア言語文化交流の研究—醍醐寺藏本を基に—」(基盤研究(B)研究分担者:3年計画3年目)の研究を推進する。
今後の申請に向けて、本学教員や他大学教員等と話し合う機会を持ちたいと考えている。

2. 点検・評価

○現在、交付を受けている「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(基盤研究(C)研究代表者:5年計画3年目)と、「日本伝来宋版一切経の角筆点の発掘と東アジア言語文化交流の研究—醍醐寺藏本を基に—」(基盤研究(B)研究分担者:3年計画3年目)の研究を推進した。
○新たに、本学国語コース教員との共同研究として「言語活動企画力の習得を図る国語科教師教育カリキュラムの構築」(基盤研究(B)代表研究分担者:3年計画)を申請した。ただし、残念ながら不採択となった。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

○他大学の教員を通して本学大学院入学を勧める(大学案内、依頼文書の発送)。
○オリエンテーションなどの機会を通して、採用猶予制度のある都道府県の教員採用試験の受験を勧め、採用試験合格後に本学大学院に進学するようアドバイスする。
○ストレートマスター、長期履修学生の増加を期待して、大学院生の教員採用試験合格率を高める。そのために、専門科目に関する基礎的な知識と理解を促すような指導を授業以外の時間にも実施するほか、採用試験に向けた支援を行う。

2. 点検・評価

○科研による調査時や、メールによって、他大学の教員に本学大学院入学案内を依頼した。また、大学案内なども発送した。
○4月当初のオリエンテーションや、その他の機会を通して、採用猶予制度のある都道府県の教員採用試験の受験を勧め、採用試験合格後に本学大学院に進学するようアドバイスした。
○大学院生の教員採用試験合格率を高めるために、高等学校古典(古文)の模擬授業などを授業時間外に指導した。

ただし、これらの活動を行ったにもかかわらず、最終的には大学院言語系コース(国語)への入学者が9名に終わった。この結果を踏まえて、今後の取り組みを考えなくてはならない。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

○学生とのコミュニケーションを密にして、各自の抱える学習・就職・生活に関する悩みや問題解決のための支援を積極的に行う。
○教員就職に対する支援(論作文、模擬面接・模擬授業・模擬場面指導、自己アピールなどの指導)を積極的に行う。特に、中学校・高等学校国語科教員志望の学生に対する教科専門試験対策(古典)を行う。

2. 点検・評価

○常に声かけを行うなど、学生とのコミュニケーションを密にして、各自の抱える学習・就職・生活に関する悩みや問題解決のための支援を行った。
○教員就職に対する支援(論作文、模擬面接・模擬授業・模擬場面指導、自己アピールなどの指導)を行った。特に、中学校・高等学校国語科教員志望の学生に対する教科専門試験対策(古典模擬授業)を行った。

II-2. 研究

1. 目標・計画

○醍醐寺宋版一切経目録作成のための文献調査(科学研究費補助金分担者:3年計画の3年目)を6月と8月に行う。また、文献目録原稿の校正(写真照合)を行う。
○「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(科学研究費補助金代表者:5年計画の3年目)を推進し、小松島市地藏寺の調査を完遂し、所蔵文献目録を公刊する。

2. 点検・評価

○醍醐寺宋版一切経目録作成のための文献調査(科学研究費補助金分担者:3年計画の3年目)を6月と8月に行ったほか、9月にも追加調査を行い、目録原稿と原本との1次照合を終えた。また、出版に関する話し合いを行い、書式・目次や出版社についての方針を固めた。
○「国語史資料・学習史資料開発のための近世地方寺院伝存文献の調査研究」(科学研究費補助金代表者:5年計画の3年目)を推進し、平成24年12月に「寶壺山願勝寺所蔵文献目録索引編」(全99頁)を刊行した。また、小松島市国伝山地蔵寺における文献調査を完了し、平成25年3月に「国伝山地蔵寺所蔵文献目録[上冊]」(全480頁)を刊行した。
○願勝寺所蔵文献を基に、論考「寶壺山願勝寺における僧侶の修学と書写・所持文献—義剛上人・快明上人・快淵上人を取り上げて—」をまとめ、本学研究紀要に投稿した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- コース長, 就職委員会の委員として円滑な大学運営に積極的に協力する。
- 全国学校教育実践顕彰事業実行委員会の委員として, 当該事業の実施にあたる。

2. 点検・評価

- コース長, また就職委員会の副委員長として大学運営に協力した。
- 全国学校教育実践顕彰事業実行委員会や, その他の委員の職務について協力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 学部・附属国語科連絡協議会に所属し, 附属学校園の教員と連携して, 教育実習を通じた学生の教育実践力の養成に努力する。
- 教育委員会, 小・中・高等学校などからの協力要請に積極的に応える。

2. 点検・評価

- 学部・附属国語科連絡協議会に所属し, 附属学校園の教員と連携して, 教育実習生の指導に当たった。また, 第59回小学校教育研究会(平成25年2月9日)において, 協同研究者をつとめた。
- 6月より, 徳島県NIE推進協議会会長として, NIE関係の会議等に出席した。
- 9月24日, 徳島県立川島中学・高等学校からの依頼で, 平成24年度出張講義(アカデミック・レクチャー)の講師を勤めた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 就職委員会副委員長として, 滋賀県・京都府・京都市・岡山県・山口県・広島県・高知県の各教育委員会を訪問し, 教員採用試験についての情報収集を行った。